

# 非住宅向け木材販売を強化

## 大日本木材防腐

### 自社オフィスモデル物件に

大日本木材防腐(本社名古屋港区千鳥1の3の17、鈴木龍一郎社長)は、自社製のエステル処理木材「和練(われん)」などを使用した新たな自社オフィスをモデル物件として活用し、建設事業者らの見学受け入れを開始した。一戸建て住宅向けの木材需要が低調に推移する中、店舗やオフィスなど非住宅向けの需要開拓を強化するのが狙い。

(武居皇弥)



本社敷地内に建設した木造のオフィス

非住宅分野では、環境意識の高まりや鉄などの価格高騰により、木造化のニーズが高まっている。同社が手掛ける木材は住宅向けが大半を占め、従来はプレカスト加工のうち非住宅向けの割合は数%ほどだった。近年では10%超で推移しているという。

建物の内装や構造材に木材を利用することは一般的だが、同社はエステル処理で含水率変化を抑制し、曲がりや割れを軽減するほか、防蟻・防腐塗装を施した和練を用いた外壁を独自に提案している。

見学を受け入れる木造オフィスは、本社敷地内に昨年5月に開設した。延べ床面積約500平方メートル。通り沿いの外壁に和練を使用しているほか、杉CLT、Rウッド集成材など計122

立方メートルを使用している。

また、太陽光発電の活用などでエネルギー消費量実質ゼロを目指す建物「ZEB」にも対応している。和練の特徴や自然素材の良さ、環境への配慮など、木造物件のメリットをPRし、非

住宅向けの木材ニーズを掘り起こす。

担当者「オリジナル製品の和練は通常の木材と比べてまだ高価だが、販売量を増やすことでコストを抑制し、普及を加速させたい」と話している。